

# 第4回技術WGでの指摘事項とその対応案

2024年4月25日

# 主な指摘事項と対応案①

## < 減容技術等関連 >

	委員の指摘事項	対応方針案
1	減容処理技術の1つ上のカテゴリーとして、分離・濃縮・安定化をキーワードとして示した方が良い。	大分類として、「減容化（分離濃縮）」と「安定化」に追加した（資料2参照）。
2	固化体については、安定性・溶出についての評価も必要。	安定化技術の評価項目については、溶出性等も考慮する（資料2参照）。
3	各用語の意味を評価の項目とうまく繋がるような形で、分かりやすく整理すること。	用語の説明を整理した（資料2参照）。今後も引き続き整理する。
4	各技術の処理能力については、スペースの観点も検討するべき。	今後、技術の組合せのフィージビリティを確認することとしており、その中でスペースの観点も考慮する予定。
5	各要素技術を組み合わせていく際の評価のスケジュールは？	次回以降の技術WGにおいて、技術の組合せの検討の中でお示しする予定。
6	減容技術等の評価に関して、マトリクス表で整理する際に、重金属も考慮すべきではないか。	濃縮物等への重金属の移行が懸念される場合は、留意点として整理する。
7	減容化技術のプロセスによって、ストロンチウム等が濃縮される可能性があるのか、整理しておくべき。	既往の知見等を踏まえて整理する。

## < 最終処分関連① >

	委員の指摘事項	対応方針案
8	管理期間や終了という言葉について整理しておくことが、その後防護をどう考えるかというところに関わるので確認すること。	IAEA安全基準等での定義も踏まえつつ、文言について整理を行う。
9	セシウムは土壌に固着するので、溶出はほとんどないとあるが、一般の感覚としては、水に溶け出すのではないかという疑問は常に出るので、丁寧に説明する必要があると思う。	これまでの知見や安全評価の結果を整理をして分かりやすくまとめていく。
10	地下水ではセシウムが動かないというだけでなく、土壌への吸着による遅延をモデルで評価した上で、安全性があると言うべき。	今後行う安全評価の結果も踏まえ、地下水への移行の評価を整理する。
11	1か所に大量に処分され、セシウムのトータルのベクレル数が多くなった時に、地下水への影響がどうなるか評価すること。	今後行う安全評価の中で評価を行う。
12	現実的なパラメータを使いながら、パラメータの不確実性を評価した上で、処分場の構造・必要面積・必要な要件の検討をするのか。	安全評価において、一部のパラメータについての感度分析を行うことも含め、放射線安全の観点での最終処分場の成立性を評価する。
13	特定廃棄物の減容化により放射能濃度が高まったときに、現行の特措法上の技術基準の中でカバーできるのか、管理の考え方も含めた形でどう整理するのか。	放射能濃度が高くなった場合の放射線安全評価を行うとともに、その際に留意すべき点を整理する。

## < 最終処分関連② >

	委員の指摘事項	対応方針案
14	放射線量の測定及び記録で、施設周辺モニタリングとしてダストの測定及び地下水の測定もモニタリングすると良い。	モニタリング内容については、埋立処分基準の検討と合わせて整理していく。
15	埋立処分の基本的な共通の立地の特性等は、考慮されているのか。	地域WG等での議論の状況も踏まえつつ、今後検討を行う。
16	セシウム以外の放射性核種について、アメリカシウムについて評価の対象とするか確認すべき。	Pu238、Pu239+Pu240を測定することにより、アメリカシウムを含む超ウラン元素の存在量を推定し、評価の対象とするかを確認する。